



こども食堂 北海道ネットワーク 通信

あつという間に二月となりました。皆さまにおかれましては
はお変わりなく、お元気でいらっしゃいますでしょうか？

若者の居場所「いとこんち」ご紹介

昨年12月9日、若者の居場所を作る「いとこんち」と子
育てを支える交流の場「ひとてま」を運営する公益財団法人
「さっぽろ青少年女性活動協会」が、内閣府「子供と家族・若



(松田考館長 スタッフとゲストハウスオーナー夫妻)

者応援団表彰」で内閣府特命担当大臣表彰を受賞されまし
た。ここは札幌市内のゲストハウスを利用して、主に13才
から19歳までの若者を対象にした居場所です。今回は事
業の事務局で、札幌市若者支援総合センターの松田考館長
をお訪ねし、お話を伺いました。

飯田:このたびはおめでとうございます。全国的には子ども
食堂数が7000か所近くになるなど、子ども食堂への関心
は高まっていますが、若者、子育ての支援はまだです。
「いとこんち」という形を考えられたきっかけはどういうと
ころからだったのでしょうか？

松田:私たちが日ごろ、児童会館や若者支援施設など、札
幌市の公共施設の指定管理者として働いてきた経験を通じ
て「こんなところがあったらいいな」を形にしたのが、いとこん
ちです。「食べる」からもう一步踏み込んで、「育てる」ことに
地域社会を巻き込む必要があると考えました。

飯田:いとこんち」とお聞きしたさい、ネーミングが素敵だと
思いました。「経済の貧困」と同時に「人間関係の貧困」もい
われますね。若者や女性の経済的な困難はニュース等で取り
上げられてもいますが、居場所、という視点から考えるのも
大事だったんですね。

松田:経済であれ、人間関係であれ、貧困の何が本当に問
題かという「負の状態が固定化される」ことだと私は考え
ています。居場所の良さは「みんなに出番と役割があるところ」
と言われますが、もう少し踏み込んで言うと、居場所にお
ける出番や役割は、柔軟に入れ替わることができるんです。
例えば、さっきまで勉強を教わっていた子どもが、大学生に
ポケモンを教えてあげたり、ゲームに負けて落ち込んでいる
スタッフを慰めたり。子どもたちが「支援を受ける人」「困っ
ている人」という立場に固定化されるのではなく、場面によって
物知り博士にもチャンピオンにもなれるわけです。あえて学
校の教科学習と比較するなら、居場所で行われる場面学習
は、自由なモ/サシで点数が付付けられます。そのうえ場面は
無限に設定できるわけですから、勝つも負けるも場面次第
です。勝って喜ぶ、負けて悔しがる。勝ち負けはあっていいけ
ど、それを固定化しないという視点で、私は居場所を運営し
ています。

飯田:現在、定期的には何人くらいの若者が来ているのでし
ょうか？彼ら/彼女らはどのような道筋をたどって、いとこん
ちに来るのでしょうか？

松田:いとこんちは週に3日オープンしています。どのペー
スを定期的と捉えるかは本人たちが決めることなので、なん
とも言えませんが、たとえばここ一か月のうちに一回以上来
たことのあるいとこは20人くらいです。また、一日に同時に
くるのは、多くても5名以下にしています。いとこ
んちは「ガ千の親戚ごっこ」なので、家っぽく過ごすには、その
くらいが限界ですね。初めていとこんちに繋がる道筋は、ほ
ぼ例外なく周りにいる大人のの人に勧められて、です。実際に

は、学校、児童会館、保健師、保育園、児童相談所、民生委員、子ども食堂の方など、子どもや子育てに関わっている大人が、初回はだいたい一緒に来ることが多いですね。

飯田:なるほど…。彼らは集まって、どんなことをして過ごすのですか?いとこんちを見学させていただいたさい、お風呂

も入ります、とお聞きしたり、離乳食は作ったことない、とおっしゃりながら離乳食を手作りされているスタッフの方に感動しました。

松田:何も特別なプログラムはありません。お風呂に入

ったり、ご飯を食べたり、宿題をしたり、おしゃべりしたり。暖かい家で暖かく過ごす、何気ない時間をただ普通に体験しています。何せ、ガキの親戚ごっこですから(笑)。離乳食づくりに限らず、若者たちは親になれば、初めてだらけの日々を奮闘しています。私たちスタッフも、いとこんちにいる間は社会福祉士でもなく公認心理師でもなく、単なる「おばさんおじさん」ですから、親と一緒に奮闘するのみ、です。余談ですが、いとこたちに「ちょっと相談があるんだけど…」と持ち掛けられたときに、おばさんおじさんの顔をして聞くか、専門家としてスイッチを入れるかは、毎回ちょっと迷いどころです。

飯田:そうなんですか…。食料配布もされているとお聞きしましたが、それは十分に足りていますか?

松田:モノが足りることは恐らく永遠にありません。だから工夫もするし、助け合ったり、譲り合ったりする関係性も生まれます。もし常に潤沢なモノとお金があったら、私たちは与える役割に固定化されてしまうので、ここが居場所じゃなくなってしまうかも知れません。ですから、私たちが行っている食料配布は「お裾分け」と呼んでいます。お米を取りに来た人が絵本を置いて帰ったり、ということもあります。(あ、でも本音を言うと、ご寄付と食料等のご寄贈は涙が出るほどありがたいです)

飯田:何かできることがないかな、という方もあると思います。

松田:そういう方々にアピールされたいことはありませんか?

松田:いとこんちを始めてから、私を含めてスタッフの数名がプライベートで里親になりました。「これだけ助けてくれる人が世の中にいるなら、里子さんを預かって何とかならんんじゃないかな」と感じたからです。できることは人それぞれだ



と思いますが、「お子さんを授かったら、みんなで育てるから何も心配しなくて良いよ」という強烈なメッセージを世の中に溢れさせたいですね。里親になる、子ども食堂に寄付をする、いとこんちのSNSにいいねを押す、地下鉄でベビーカーに優しくする、そんな光景をみかけたら新聞に投書する、なんでもアリです。「人類みな兄弟」はムリでも、「地域あちこちい」とこは実現できると、わりと本気で信じています。

飯田:いいお話でした。子ども食堂を運営する私たちも深く考えたいお話聞かせていただきました。今日はお忙しい中、ほんとうにどうも有難うございました。

連絡先 子ども・若者の居場所いとこんち事務局

札幌市若者支援総合センター

☎011-223-4421

栗山侍ジャパン監督、西岡こども食堂に

12月4日、西岡こども食堂(札幌市豊平区西岡3条9丁目3-5 西岡観光第二ビル2階 ミラバ)に、栗山英樹侍ジャパン監督(前ファイターズ監督)と中島卓也選手がお見えになり、子どもたちと楽しい談話の場を持たれました。マスクのカメラも入る中、50名ほど集まった野球好き小学生たちは質問をしたり、ゲームをしてサインポウルなどのプレゼントをもらい、大喜びでした。



2023年度ネットワークの活動について

11月24日に札幌市子ども未来局、12月15日に北海道保険福祉部をお訪ねし、次年度課題・学習交流についての意見交換や共同連携活動について懇談をしました。また、子ども食堂をさらに道民・市民に広く知ってもらおう活動として通称・千カホにてのパネル展の共同開催可能性や、全道各地の地域ネットワークのリーダーさんによる交流会開催等々についても懇談しました。子ども食堂が誕生して10年の節目を迎えるこの2023年の課題として「運営者」「支援者」「行政」の連携が進むように協働を進めましょう!

(編集・飯田 澄子)

〒003-0803

北海道札幌市白石区菊水三條4丁目1-3

こくみん共済COOP北海道会館4階

☎ 011-841-8601

<https://ks-hokkaido.net>

info@ks-hokkaido.net

こども食堂

北海道ネットワーク